

○低コスト林業の推進に向けた現地検討会

10月29日（火）三八・上北流域森林林業活性化センターと当森林管理署が共催する「低コスト林業の推進に向けた現地検討会」を六ヶ所村平沼第一国有林1193林班内製品生産及び造林事業請負契約箇所（株）倉岡素材造林）において、森林組合、林業事業体等の関係者約70名の参加により開催しました。

今年で8回目となる現地検討会では、昨年と同様の「森林作業道の作設方法の普及・定着を図る」ことを目的とし、主催者代表して森林林業活性化センター会長の挨拶、講師である局資源活用課生産係長より路網の体系と現状と森林作業道の考え方等の説明の後、バケットグラップル（IWAFUJI 工業）による森林作業道の排水処理改良等の実演を行い、その後意見交換を行いました。

現地は、緩傾斜地で、以前使用した既設の作業路が森林作業道として使用可能であり、列状間伐の実行伐区であることから、伐列を搬出路として使用し森林作業道等路網整備を最小限にとどめた作業形態により、林地に配慮した作業を実践しており、意見交換では、三八地域と上北地域の土質の違い、沢沿いの作業道の汚濁防止の配慮等で意見が出され、森林林業活性化センター事務局（三八地域県民局）より施工事例から土質に応じた作設方法等の説明がありました。

当地域の森林・林業においては、比較的緩斜地の海沿い地域、急傾斜地の奥羽山脈地域があり、その地形・林況から現地にあった作業システムの選択（使用する機械等の選択）により路網整備等とそのかかる経費、搬出コストに多大な影響があることから、今後もこのような検討会を開催しながら、生産性向上、森林林業の再生に向け地域林業の貢献できるよう取組を進めていきます。

ご多忙のところ、ご参加いただきました関係者の皆さま、大変ありがとうございました。



開会の状況



実演の状況



使用機械の説明



意見交換の状況